

「国立ハンセン病資料館事件が露わにした公務委託の闇」への感想

ハンセン病資料館で人権侵害は

本末転倒だ

小林寿太郎

当金融・労働研究ネットワークでは「週刊金曜日」に掲載された「国立ハンセン病資料館事件が露わにした公務委託の闇」(竹信三恵子氏)を紹介した(7月29日 up)。このレポートを読んだ小林寿太郎さんから感想が寄せられた。

多磨全生園資料館の不当労働行為についての会員記事を読ませてもらいました。そもそも資料館はハンセン病患者に対する差別はあってはならないという趣旨で設立されたものです。その資料館のなかで不当労働行為がなされているというのは本末転倒であってはいけないことです。

私も何回も多磨全生園と資料館を見学しました。多磨全生園は、昔は管理棟、診療所、患者住宅、作業所などがたくさんあったと思いますが、今は診療所、患者住宅が多少あるくらいで青々とした広大な芝生広場があります。私の叔父は医師でしたが一時、多磨全生園に勤務していました。

多磨全生園に一步、足を踏み入れるとそこには異次元の世界が広がっています。

かつては広大な敷地には管理棟、懲罰棟、患者住宅、診療所、小学校、洗濯工場、食品店、理髪店、耕作地、養豚場、養魚場、寺院、神社、キリスト教会、火葬場、墓場などがあり、外界から隔離されても生活が営めるように、比較的症状の軽い患者が重労働に従事していました。

そのために体力を消耗して死期を早め、死ぬとまだ体力のある患者が火葬して埋葬しました。今は収容している患者及び元患者は高齢化して人数も減り、20年後には収容者はいなくなると言われています。

敷地には収容者用住宅がまだあり散歩している年寄も見かけます。現在の全生園は全体としてうっそうとした雑木林に覆われ広大な芝生のなかに管理棟、神社、教会、寺院があります。いたるところに季節の花が咲き乱れており事情を知らない人は自然公園と思うかもしれません。

(小林寿太郎)

竹信レポートは公開されています

この竹信氏のレポートを「週刊金曜日」は全文をインターネットで公開しています。ご参照ください。

リンクは

[国立ハンセン病資料館事件が露わにした公務委託の闇 | 週刊金曜日オンライン \(kinyobi.co.jp\)](http://kinyobi.co.jp)

また、「ハンセン病資料館 不当解雇学芸員を支援する会」はホームページに詳細な解説資料をアップ。2名の学芸員雇い止め(=解雇)を、東京都労働委員会が不当労働行為と認定し、職場に復帰を命じた後に行われた「2022年5月10日厚生労働省記者会見」の項では、労働側の今泉、小部両弁護士(東京法律事務所)が簡潔で分かりやすく解説。このたたかいが、単に労働組合潰し攻撃に対するたたかいにとどまらず、本来公的な性格を持つ公務労働が民間委託の形で「入札」によって行われることの問題点を明らかにしています。

リンクは

[ハンセン病資料館 不当解雇学芸員を支援する会 \(against2020hansens-issues.info\)](http://against2020hansens-issues.info)

(金融・労働研究ネットワーク田中均)